

国際部会

初めての豆腐づくりに歓声

外国人留学生の料理教室 国8-国 佐伯 義昭

(財)県国際交流協会からの国際交流活動の助成金で、グループわ国際部会の平成17年度の事業として、11月3日(木)午前10時から東灘区民センター“うはらホール”で、外国人留学生と日本料理で交流会を開きました。

参加者は留学生18名はじめ国際部会12名、食文5期生8名、本部1名総計39名という定員をオーバーする賑わいでした。



豆腐づくりに取組む外国人留学生達

留学生はウルグアイ、ベトナム、アルゼンチン、エクアドル、スペイン、ブラジル、アメリカ、モンゴル、ロシア、ポーランド、香港と国際色豊かな人達が参加、多言語が飛び交う国際交流の場となりました。

料理教室では日本の伝統的な豆腐作り、きのこの炊き込みご飯というメニューを企画。これには食文5期“銀の匙”グループの人達がレシピを作成(和文)して下さり、それに英文のレシピを作成して留学生に配布しました。

豆腐作りは食文の方が準備万端手際よく前夜から大豆を水につけて下さり、当日はつけ水と共に大豆をミキサーにかけることから始

まりました。そしてあわせ汁を作り、豆乳を搾り出し、袋に残ったのが「オカラ」。搾り出した豆乳を加熱し、このとき表面に張る膜が「ユバ」。ニガリを打って、とうふ箱に移し水分を切ると、見事な豆腐が出来上がりました。

留学生達は料理台が6台なので6班に分散、食文の人達の手つきを一生懸命眺めたり、また指図により豆腐作りの作業を楽しんでい

ました。各班ごとに時間のずれはありましたが、出来上がった豆腐に彼等は拍手と歓声が上っていました。

一方、きのこの炊き込みご飯の調理も同時に進められ、12時ごろに炊き上がりました。自分達の手で作った豆腐に醤油をかけ、きのこの炊き込みご飯、それにオカラの炒り煮を賞味する彼等は満足そうでした。

留学生達はもちろん私達もはじめての体験であり、大豆から豆腐を作る過程で、ユバ、豆乳、オカラが出来上がることを知り、これを食し日本の食文化の合理性を学んだことだと思う。食文(5期)銀の匙の方々には大変お世話になりました。

文化部会

「老老」から「老少慰問」へ
音4-文 垣尾 一士

老少慰問のSCハワイアンズとデーサービス塩北

SCハワイアンズの支援もあって、全国ミュージックベル合奏コンテスト高齢者部門で見事全国第3位(銅賞)を受賞した『デーサービス塩北』チームに対し、近隣の老人クラブの要望で「敬老の日」に演奏会を実施。「老老介護」ならで「老老の慰問」として情報ぎやらりー32号にも紹介された。

それが今度は、元気な老人達の活躍ぶりを是非、子どもや地域の人々にもとの要請で、12月3日、マナビィクリスマス会に出演、150名程の前で「老少慰問」となった次第。

2度の出演ともなると終了後には「六小節からリズムが狂った」とか「転調後の出だしの声が出ていなかった」等、反省意見もしきり。ちなみに演奏曲は『きよしこの夜』に始まって『エーデルワイス』『谷間の灯』『アロハオエ』(受賞曲)等5曲を英語、ハワイ語を混じえて迫力ある合奏(唱)を披露。

何歳になっても人前に立ち、多くの拍手をもらい、達成感にひたるこのグループを見て、まさに自己実現することが人間を活性化させる要諦と痛感!のひとときでした。

国際部会

留学生とローンボール

国8-国 廣田 重行

今年2度目となる外国人留学生とのスポーツ交流会を11月19日(土)しあわせの村ローンボウルス場で実施した。参加者は外国人留学生6名と国際部会員、生涯スポーツクラブ員の計32名が8レーンで競技しました。留学生はウルグアイ、ベトナム、アルゼンチン、スペインと多国籍ですが、日本語を勉強しているので十分意思が通じていました。

前回、ペアを組んだスペインの留学生が名前を覚え

ていて“コモエスタ”と答えたが、後が続かない。それでも競技中には英語、スペイン語、日本語と歓声が飛び交った。2度参加の留学生もローンボウルの基本が大体わかってきて、自分で得点表をつけるようになり、うまくプレーするとガッツポーズをするなど上達したようである。

対戦相手の球を間違えて使用するなどのハプニングや珍プレーもあって、和気あいあいのうちに競技を終了、アッという間の2時間であった。生涯スポーツクラブの方々には準備段階から競技指導まで協力して頂き有難うございました。